

# 熊野神社

地区センターを過ぎると、道の右手に東神奈川公園があります。この公園のすぐ向こうに、熊野神社が見えてきます。

この神社は、もと権現山にありました。平安時代に、紀伊の熊野権現を招いたことによる、といわれています。その後、江戸時代の中頃に金蔵院の境内に移され、明治初めの神仏分離令により、金蔵院から分かれました。

下の『金川砂子』の「夜宮祭礼」図は、江戸時代後期



「金川砂子附神奈川史要 熊野社夜宮祭礼」名著出版



の神社のにぎわいが描かれています。社殿の脇で神楽が舞われ、参道の東側にみこしが置かれています。

現在の社殿は戦後再建されたものですが、境内にはイチヨウの古木などが残っています。

# 金蔵院

金蔵院は熊野神社の北側にあります。しかし、江戸時代は東西に並んでいました。『金川砂子』にその様子を見ることが

できます。この図によると、金蔵院の境内は今より広く、門の位置も熊野神社と



並んでいました。そしてこの門まで、街道から参道が延びていました。左中段は、昭和四十年（一九六五）につ



「金川砂子附神奈川史要 金蔵院熊野社御殿跡」名著出版

# 東光寺

東光寺の本尊はもと太田道灌の守護仏でしたが、道灌の小机城攻略後、小田原北条氏の家臣である平尾内膳がこの仏を賜り、東光寺を草創したといわれています。

また道灌は内膳に本尊を与えるに際し、「海山をへだつ東のお国より、放つ光はここもかわらじ」との歌を詠んだといわれ、この歌が東光寺の名称の由来とも伝えられています。



# 神明宮

江戸時代の神明宮は能満寺に所属していましたが、明治初めの神仏分離令により分かれました。

かつて境内を流れていた上無川に牛頭天王の御神体が現われ、洲崎大神およびこの神社に牛頭天王を祀ったとの伝承もあります。また、境内にある梅の森稲荷には、若い女旅人にまつわる哀れな話も伝わっています。

